

215億円の基金は

住民の負担軽減、市民生活擁護のために使うべき

2016年度 予算要求



11月25日、日本共産党長野市議団は2016年度予算編成にあたって加藤市長に対し予算要求書を提出し申し入れを行いました。長瀬長水地区委員長も同席しました。

重点要求では9月19日に強行採決された「平和安全保障関連法」は憲法違反であり立憲主義に反することから、この廃止を政府に求めること。自衛隊員募集のための名簿提供は行わないよう求めました。また215億

円の基金は、住民の負担軽減のために各種見舞金の復活や、国保料一万円の引き下げなど福祉・暮らしへの活用を図るようもめました。

その他マイナンバー制度、連携中枢都市圏構想、18歳選挙権、公契約条例、防災対策など重点要求項目49、分野別要求項目は289項目になりました。平和と暮らしを守り、市民の願い実現のために新しい年も力合わせて頑張ります。

12月定例市議会

選挙の公約実現と個性を生かした質問に

9月の市議選後初の定例議会となった12月議会は、昨年11月27日から12月15日まで開かれました。代表質問を市議団長の野々村ひろみ市議が、一般質問を3人の新人議員が選挙戦で訴えてきた政策の実施をそれぞれの個性を生かして行い、一定の前進と貴重な成果をあげることができました。また小林よしかず、あべ孝二、佐藤久美子各市議は委員会審議、討論などで奮闘しました。

「安保健法（＝戦争法）」の廃止を求める 4本の請願をまたもや否決

新友会、公明党

12月定例会には、「憲法9条の会」「憲法かえるのやだネット長野」「ママは戦争しない」と決めた実行委員会」などの市民運動団体や「長野地区憲法擁護連合」から安全保障関連法の廃止を求める4本の請願が提出されました。市議選で多くの市民が「安保健法」の廃止を求めている世論がはつきり示されましたが、相変わらず新友会と公明党はその市民の声にこたえることはなく否決しました。請願を否決する討論に立った公明党市議団は「安保健法は憲法違反ではない、国民の安全を守るためのもの」という主張をいまだに繰り返すばかりでした。請願に賛成したのは共産党市議団（7人）、改革ながの・市民ネット（7人）、無所属（2人）。反対は新友会（議長を除く17人）、公明党（5人）。

冷たい長野市の姿勢を質す

民生費は最下位クラス、 商工観光費は全国トップクラス

長野市の予算の特徴は、福祉関連予算となる民生費が中核市45市の中で39位と最下位クラスです。中核市平均まで民生費を増やせば、100億円以上増やすことができます。

またもう一つの特徴は、商工観光費は中核市平均3・3%の倍で、6・7%になっていることです。社会保障の充実を強く求めました。

特に高い介護保険料に多くの高齢者が苦しんでいます。必要なサービスは十分受けること

はできません。にもかかわらず長野市は、介護は社会化されるからという理由で、在宅で介護を行っている市民に支給している在宅福祉介護料を、13万5千円から年々大幅に減額し、今では年間3万5千円に削減してしましました。

この額は、3万円の飯山市に次いで下から2番目の低さです。駒ヶ根市16万円、伊那市12万円、松本市、上田市、中野市、大町市は10万円です。また難病や肝臓病、在宅酸素

人工透析の患者さんに支給されていた年間1万5千円の見舞金も全額廃止。多くの他都市は支給しています。

県都長野市の冷たさが際立っています。財政調整基金など200億円もある基金を活用してこれらの復活を求めました。が、「社会保障審議会の答申を得て決めている。基金は福祉事業の目的に取り崩すことはできない」と答弁しました。市政の転換が強く求められています。



野々村ひろみ (市長)

福祉環境委員会/まちづくり対策特別委員会/議会運営委員会/長野市社会福祉審議会委員



小林よしかず (幹事長)

経済文教委員会委員長/総合計画等調査研究特別委員会/議会運営委員会/長野市都市計画審議会委員



あべ孝二 (副団長)

総務委員会/農林業振興対策特別委員会/農業委員/長野広域連合協議会議員



佐藤くみ子 (副団長)

建設企業委員会/公共施設の在り方調査研究特別委員会委員長/決算特別委員会/北信保健衛生施設組合協議会議員



黒沢清一

経済文教委員会/まちづくり対策特別委員会/決算特別委員会/千曲衛生施設組合協議会議員



滝沢しんいち

総務委員会/公共施設の在り方調査研究特別委員会/長野広域連合協議会議員/長野市都市内分権審議会委員



おいで光

福祉環境委員会/総合計画等調査研究特別委員会/議会報編集委員会委員

修学旅行費の事前支給など就学 援助制度の拡充、特別教育支援 員の増員を求める

教育費の保護者負担は大変重くなっています。憲法で「義務教育は無償とする」となっていますが、払いたくても払えない家庭が大変多くあります。中学校の修学旅行費は、約6万円で、保護者にとつて大きな負担です。就学援助の家庭に修学旅行費を事前に支給できるように、質問しました。

また小中学校のクラスのなかに、教室を飛び出してしまいう子が、複数いて、担任一人では対応できない場面もあります。現場の要望に見合う特別教育支援員の配置を求めました。

教育次長は、「特別支援教育支援員は、必要な学校へ配置できるような配慮をしている」と答弁し、現場の厳しい実態を受け止めようとはしませんでした。さらなる努力を求めました。

皐月保育園移転に伴う北部市民 プールの廃止予定は白紙に

道路の拡張に伴う皐月保育園の移転、改築については、長野市は、移転先として北部市民プールを廃止して、そこに移転する計画を発表しました。しかし多くの皆さんから市民プールを無くさないでほしいという声が上がっていることを指摘し、見解を質しました。

こども未来部長からは、存続を望む声が多く寄せられており、プールへの移転にはこだわらず、昭和の森の中で皐月保育園の移転先を検討するとの回答で、プールの廃止は白紙に戻りました。

雇用環境改善のための企業向け セミナーの実施、市独自の奨学 金制度を提案

若者の深刻な雇用環境と、働いても返せない奨学金の問題を中心に質問しました。ブック企業の調査・指導を市が行うよう要望しましたが、

商工観光部長は「調査は労働基準監督署が行うもの」と後ろ向きでした。雇用環境改善のための企業向けセミナーの実施を提案すると、これについては「研究したい」と一定前向きな答弁が得られました。今後も求めていきたいです。

周辺のほとんどの市町村が行っている自治体の奨学金の大学までの拡充を提案しました。

教育次長は「日本学生支援機構や民間企業の奨学金が利用されているのでやらない」と冷たい答弁でした。国の学費値上げ反対を訴えながら、奨学金の拡充を求めていきます。

軽減税率どころか大増税 低所得者をいっそう苦しめる 消費税10%

公明党を窓口議員として、「複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書提出を求める請願」が提出されました。共産党市議団、無所属議員（一人）が反対。新友会、公明党、改革ながの・市民ネットによって採択されました。

消費税は1989年4月から27年間で304兆円の税収になりました。高齢者福祉の財源のためという理由でしたが、国民年金保険料の引き上げ、年金支給の削減、介護保険料の引き上げ、介護保険サービスの低下、生活保護費の削減、後期高齢者保険料及

び前期高齢者保険料の値上げなど、高齢者福祉を支える制度は改悪が続いています。今回自公政権は、軽減税率と称して、食料品の8%の税率据え置きで合意しましたが、低所得者対策にならないことは明らかです。

軽減どころか4兆円から5兆円の大増税であり、国民を愚弄するものです。一方大企業に対しては法人税の引き下げです。軍事予算もついに5兆円を超え、大増税と「戦争できる国づくり」がまさに一体となつて進んでいます。

初 質 問 を 終 え て

おいで 光

初めての質問ということでも緊張しましたが、傍聴にたくさん駆けつけてくださったこともあり落ち着いて質問することができました。理事者の答弁は一般の感覚からすると「答えているような、いないような」言い回しが多く、その場で反論するには慣れが必要と思いました。また、時間内に質問を終えるのが難しく、最後の質問は滑り込みのような形になりましたが、ちゃんと答弁をもらうことができてほっとしました。他会派からも「心臓が止まるかと思つた」との声が聞こえました。

滝沢 しんいち

限られた時間の中で初質問でしたが、前半で時間を使いすぎてしまい、後半がとて忙しくなっていました。再質問など、もつとしっかりと準備をしていけば面白い答弁を引き出せたんじゃないかと反省点もたくさんありました。また今後の運動を進める上での課題など色々なことが明らかにまりました。

皐月保育園と北部市民プールについては住民の声が反映され、何よりも子供たちが安心して通える保育園をつくれるよう、今後も全力を尽くしたいと思っています。

黒沢 清一

日本の「子ども貧困」は、OECD加盟国の中で最下位です。18歳未満の子どもの貧困率は、つまり122万円を下回る世帯で暮らす子どもたちは、16・3%になります。憲法で「義務教育は無償とする」となっていますが、保護者負担は大変です。

信濃町では、学年費は町で負担するなど市町村によっては軽減措置を実施しています。教育次長は、校外学習の費用や給食費を抑える努力をしたと答えました。「社会で子どもたちの学びを支える」ために、引き続き父母・教職員・地域のみなさんと力を合わせてがんばります。

編集後記

今回の市議会だよりは、去年の改選後初の発行となります。ベテラン議員の原田さんの卒業、新人議員三名を迎えて大きくなった市議員団は、新たに若者、教育分野が補強できそうと心強く思います。新人議員は素直でまじめ、意欲的に活動しています。団はよく会議を持ち、新人を育てながら団の結束を強めているように思います。一月から新しく造られた庁舎に引っ越しました。使い勝手がイマイチですが、仕事をするには良い環境ではないでしょうか。トイレと水屋が遠く、運動のつもりで歩いています。若者のパワーをもらいながら新人議員の成長を楽しみにしています。（事務局角井）